

MS-1

Analog Synthesizer with 32 Full-Size Keys, 3340 VCO with 4 Simultaneous Waveforms, VCF, NovaMod FM Sources, 32-Step Sequencer, Arpeggiator and Live Performance Kit

JP

JP 安全にお使いいただくために

**注意**

感電の恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なプロ用スピーカーケーブル (1/4" TS 標準ケーブルおよびツイスト ロッキング プラグケーブル) を使用してください。

**注意**

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。

**注意**

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。

**注意**

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用前に良くお読みください。

**注意**

1. 取扱説明書を通してご覧ください。
2. 取扱説明書を大切に保管してください。
3. 警告に従ってください。
4. 指示に従ってください。
5. 本機を水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使用してください。
7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。
8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。

9. 二極式プラグおよびアースタイプ (三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広がっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電気技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご確認ください。

11. すべての装置の接地 (アース) が確保されていることを確認して下さい。



12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるように手元に設置して下さい。

13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。

14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したものの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カートを使用時の運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

16. 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。



17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いたしません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

18. ブックケースなどのような、閉じたスペースには設置しないでください。

19. 本機の上に点火した蝋燭などの裸火を置かないでください。

20. 電池廃棄の際には、環境へのご配慮をお願いします。電池は、かならず電池回収場所に廃棄してください。

21. 本装置は 45℃ 以下の温帯気候でご使用ください。

法的放棄

ここに含まれる記述、写真、意見の全体または一部に依拠して、いかなる人が損害を生じさせた場合にも、Music Tribe は一切の賠償責任を負いません。技術仕様、外観およびその他の情報は予告なく変更になる場合があります。商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。Midas、Klark Teknik、Lab Gruppen、Lake、Tannoy、Turbosound、TC Electronic、TC Helicon、Behringer、Bugera、Oberheim、Auratone および Coolaudio は Music Tribe Global Brands Ltd. の商標または登録商標です。© Music Tribe Global Brands Ltd. 2021 無断転用禁止。

限定保証

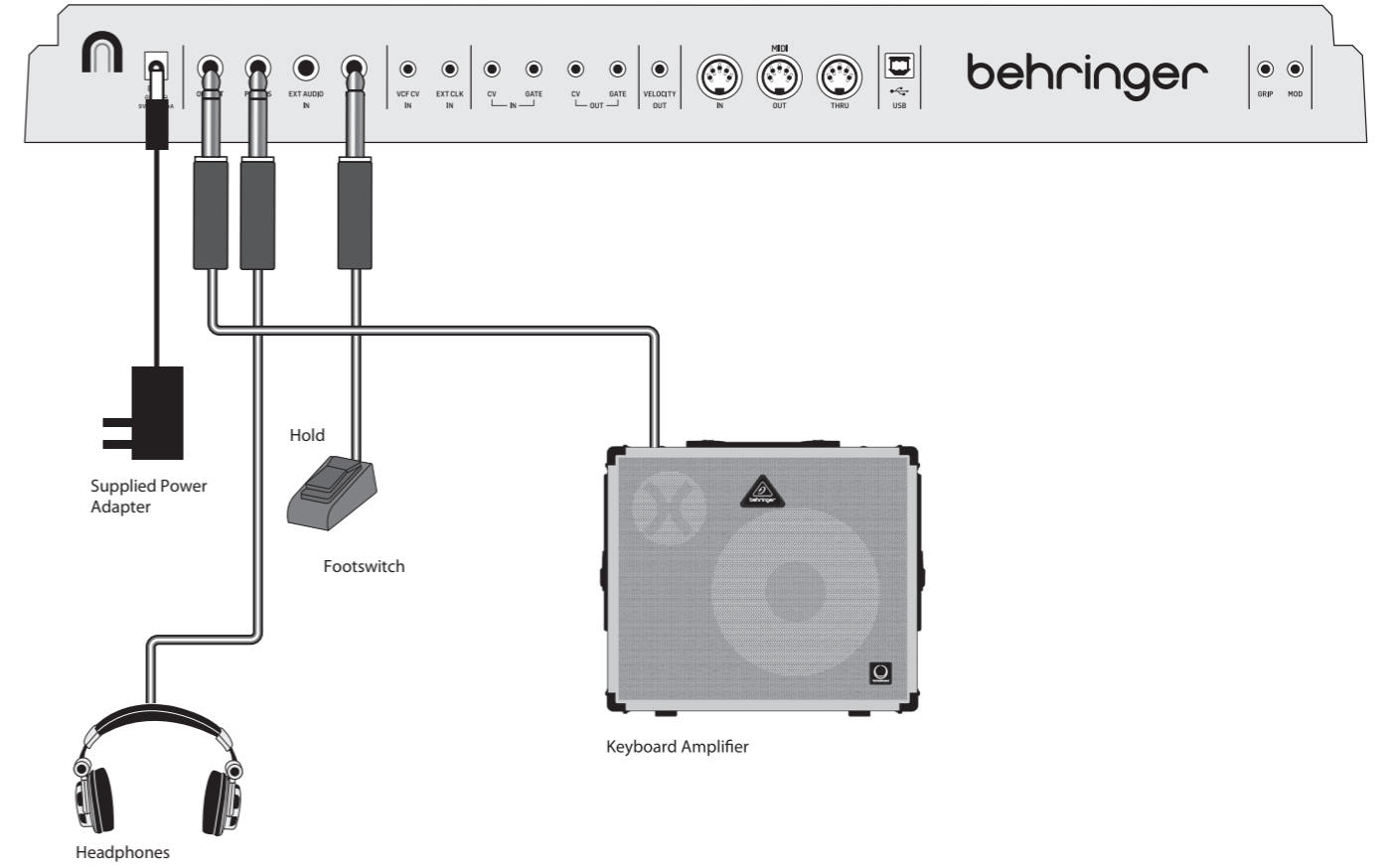
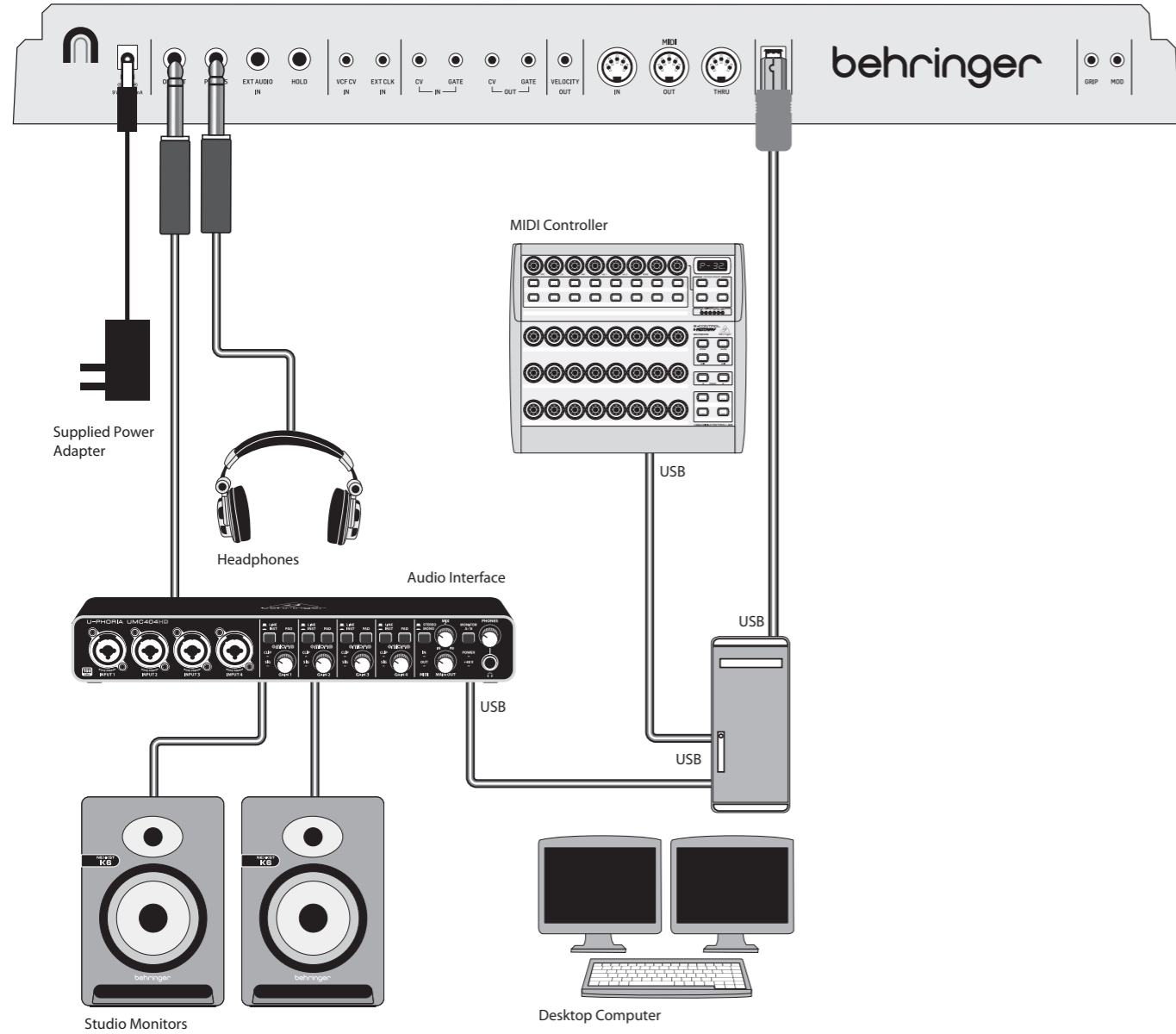
適用される保証条件と Music Tribe の限定保証に関する概要については、オンライン上 musictribe.com/warranty にて詳細をご確認ください。

MS-1 フックアップ

ステップ 1: フックアップ

スタジオシステム

バンド/練習システム

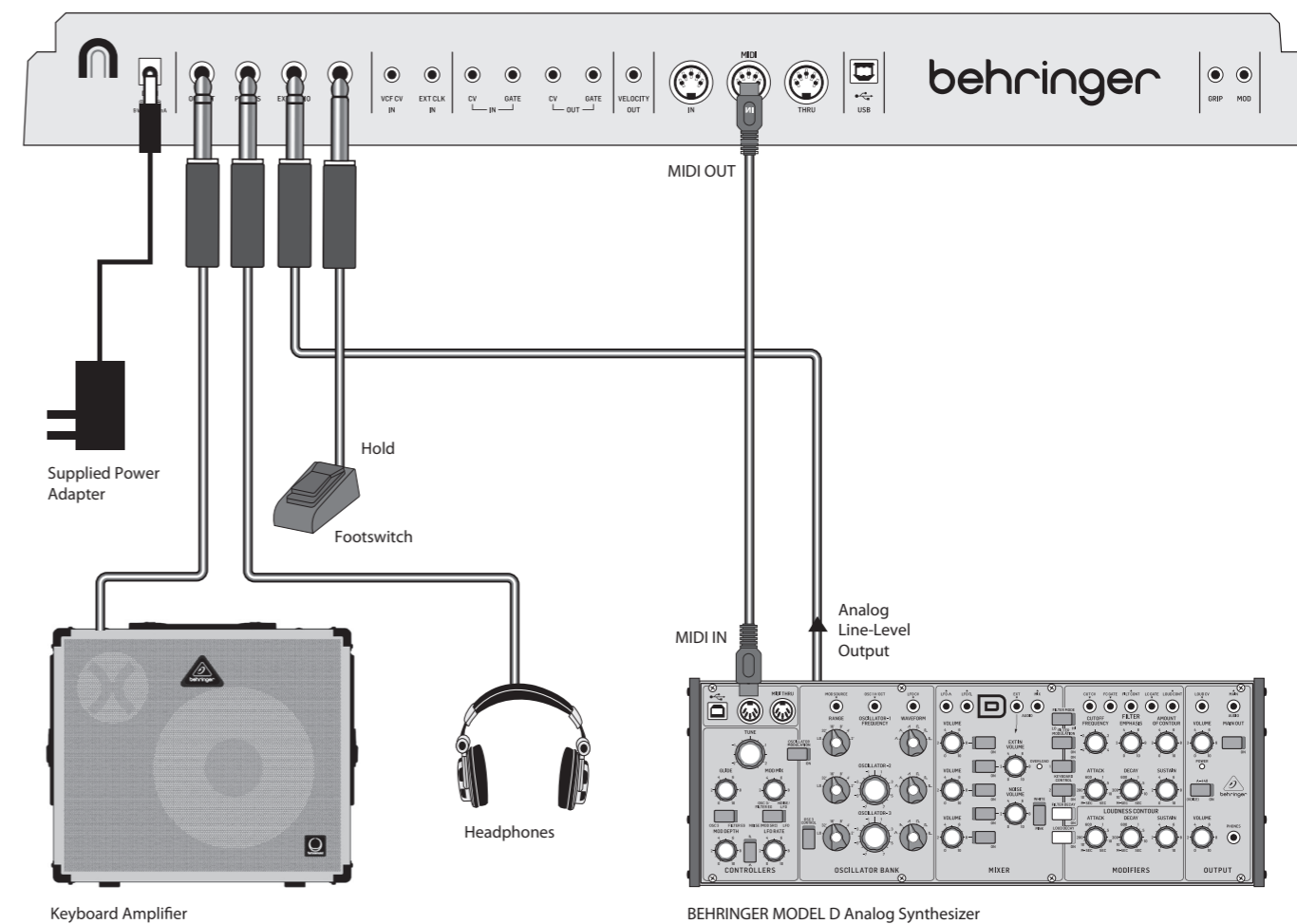
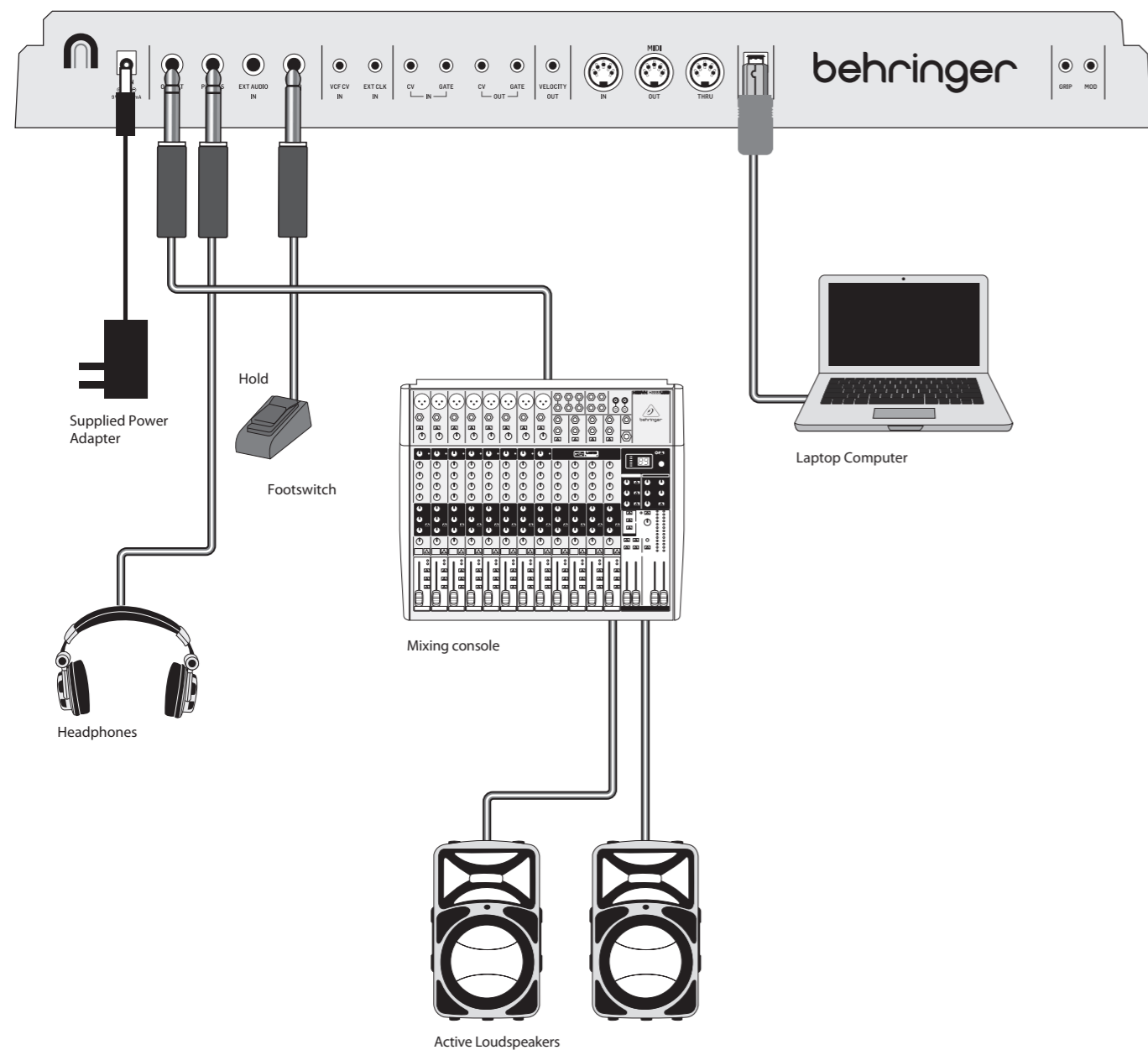


MS-1 フックアップ

ステップ 1: フックアップ

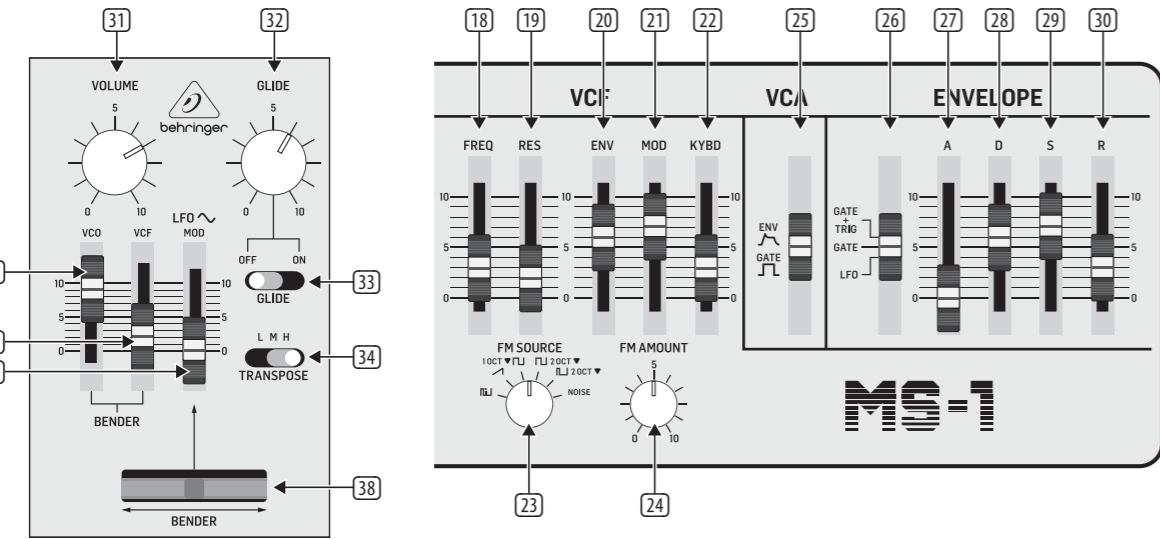
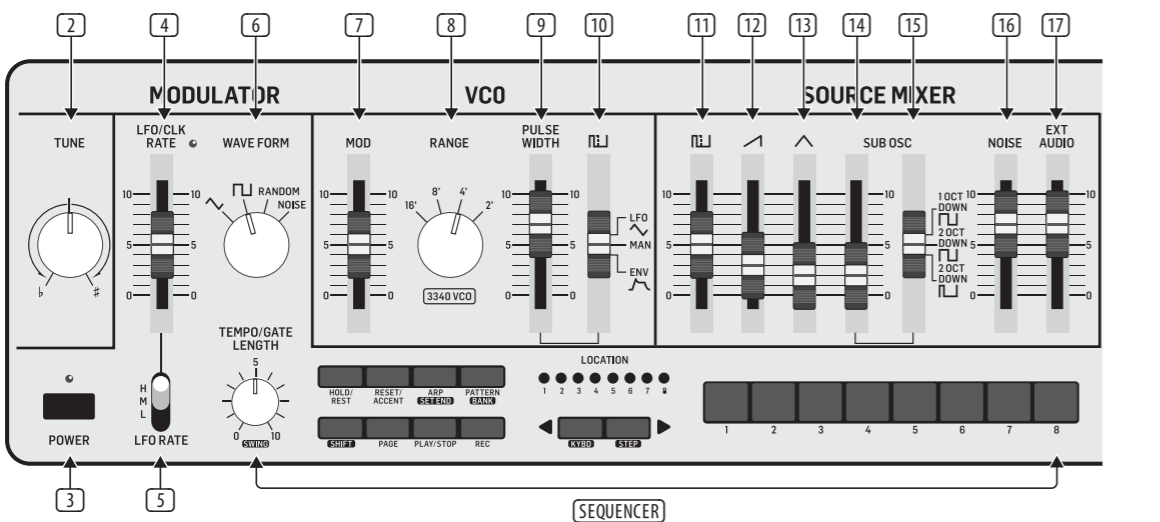
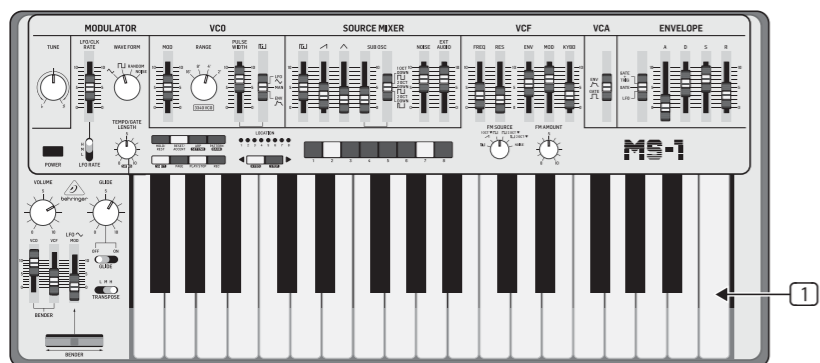
ライブシステム

外部シンセサイザーを備えたシステム

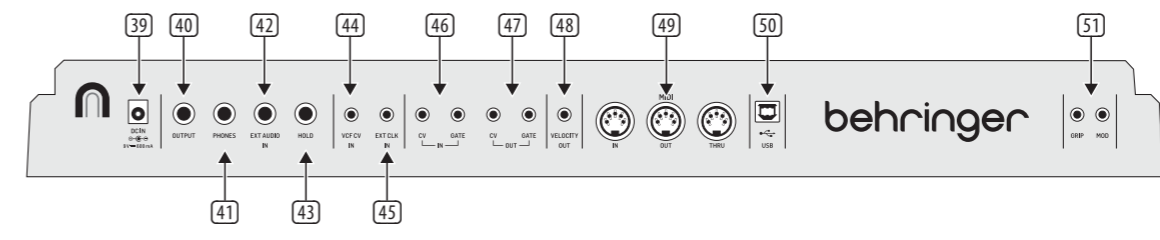


MS-1 コントロール

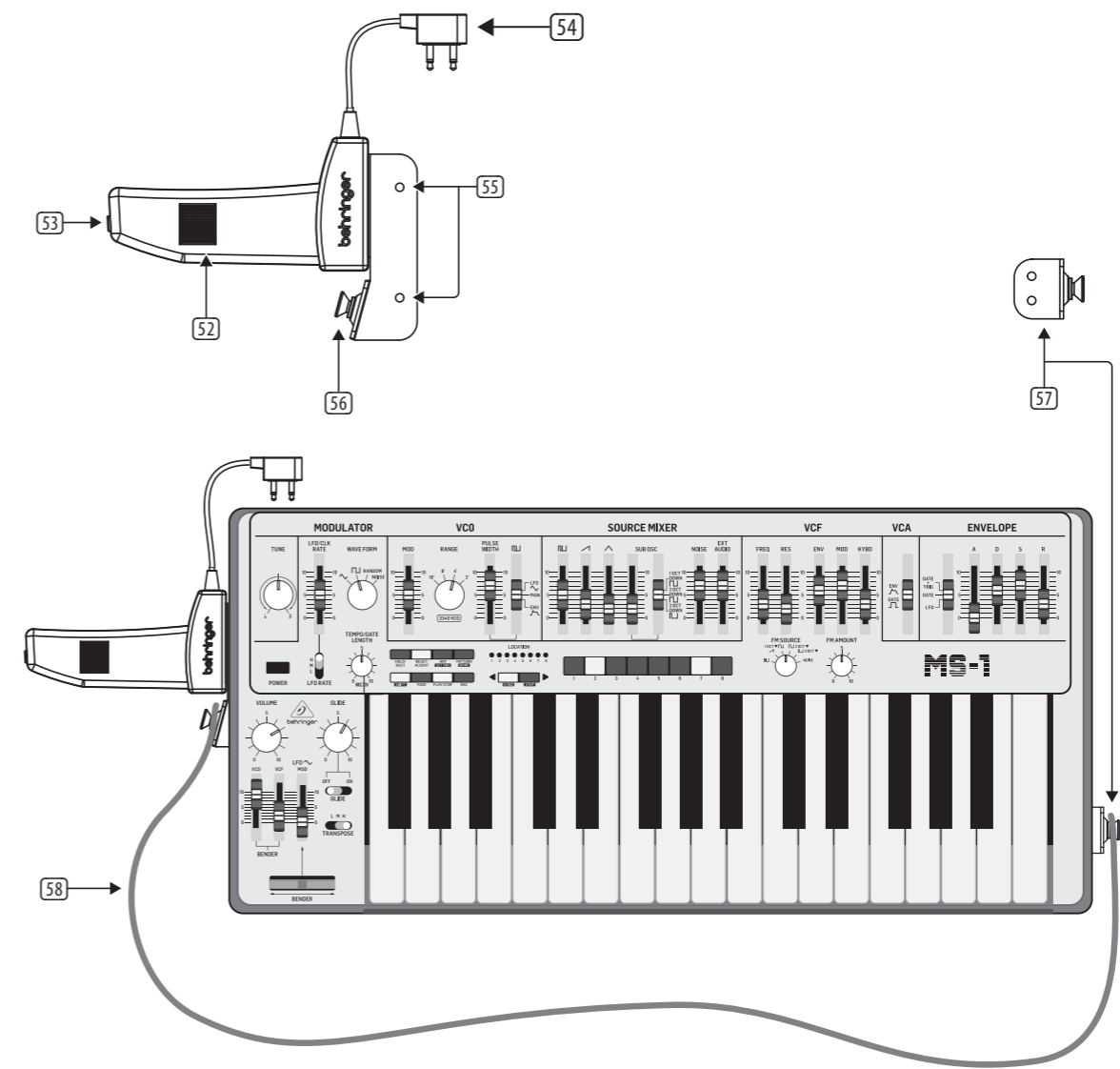
Top Panel



Rear Panel



Live Performance Kit



MS-1 コントロール

ステップ 2: コントロール

- ① キーボード – キーボードはセミウェイトッド フルサイズ 32 鍵です。
- ② **TUNE (チューン)** – シンセサイザーのメインVCOの周波数を調節します。
- ③ **POWER (電源)** – シンセサイザーの電源をオン / オフします。ユニットの電源をオンにする前に、必ずすべての接続を済ませてください。電源が供給され、ユニットがオンの時は LED が点灯します。

MODULATOR (モジュレーター) 部

- ④ **LFO/CLK RATE (LFO / クロックレート)** – モジュレーション LFO の周波数を調節します。現在のレートに合わせて LED が点滅します。
- ⑤ **LFO RATE (LFO レート)** – L (低域)、M (中域)、または H (広域) の中から、LFO レートフェーダーのレンジを選択します。
- ⑥ **WAVEFORM (波形)** – 三角波、スクエア波、RANDOM (ランダム)、NOISE (ノイズ) のいずれかの波形を選択します。

VCO 部

- ⑦ **MOD DEPTH (モジュレーションデプス)** – VCO のモジュレーションのレベルを調節します。
- ⑧ **RANGE (レンジ)** – VCO の全体的な周波数レンジ (オクターブ) を 16、8、4 および 2¹ のうちから選択します。
- ⑨ **PULSE WIDTH (パルス幅)** – パルスモジュレーション スイッチがマニュアルに設定されている時に、VCO のパルス幅を調節します。LFO および ENV の場合、モジュレーションの効果を調節します。
- ⑩ **パルス幅モジュレーションソース** – LFO 三角波、MAN (マニュアル)、または ENV (エンベロープ) のうちから選択します。

SOURCE MIXER (ソースミキサー) 部

- ⑪ **パルス** – パルス波形のレベルを調節します。
- ⑫ **ノコギリ** – ノコギリ波形のレベルを調節します。
- ⑬ **三角波** – 三角波のレベルを調節します。
- ⑭ **SUB OSC (サブオシレーター)** – サブオシレーターのレベルを調節します。

- ⑮ **SUB OSC (サブオシレーション) のタイプ** – サブオシレーターのタイプを 1 オクターブ下、2 オクターブ下、またはパルス幅が狭い 2 オクターブ下、のうちから選択します。
- ⑯ **NOISE (ノイズ)** – ノイズのレベルを調節します。
- ⑰ **EXT AUDIO (外部オーディオ)** – 外部ソースから入力されるオーディオのレベルを調節します。

シーケンサー部

SEQUENCER (シーケンサー) – 16 ページの詳細をご覧ください。

VCF 部

- ⑱ **FREQ (周波数)** – VCF のカットオフ周波数を調節します。カットオフから上の周波数を減衰させます。
- ⑲ **RES (レゾナンス)** – カットオフ周波数のボリュームレベルブースト (レゾナンス) の量を調節します。
- ⑳ **ENV (エンベロープ)** – VCF に対するエンベロープの効果の強さを調節します。
- ㉑ **MOD (モジュレーション)** – モジュレーションの VCF に対する効果の強さを調節します。
- ㉒ **KYBD (キーボード)** – キーボードの VCF に対する作用の強弱を調節します。
- ㉓ **FM SOURCE (FM ソース)** – VCF の FM モジュレーションのソースを次のうちから選択します: パルス、ノコギリ波、1 オクターブ下スクエア波、2 オクターブ下スクエア波、2 オクターブ下パルス、およびノイズ。
- ㉔ **FM AMOUNT (FM アマウント)** – VCF に対する FM モジュレーションの効果の量を調節します。

VCA 部

- ㉕ **ENV/GATE (エンベロープ / ゲート)** – VCA が、エンベロープコントロールとゲートのいずれから作用を受けるかを設定します。

エンベロープ部

ADSR エンベロープを VCA に適用すると、ある時間に渡ってプレイされるノートの、レベル制御に使用されます。ADSR エンベロープを VCF に適用すると、ある時間に渡ってプレイされる各ノートの、フィルターカットオフ周波数制御に使用されます。

さらに、ADSR エンベロープは VCO パルス幅モジュレーションにも作用します。A (アタック)、D (ディケイ- 減衰) および R (リリース) ステージは時間単位で、S (サステイン) ステージはレベルではかります。

- ㉖ **GATE + TRIG (ゲート+トリガー)** – キーを押すたびに、エンベロープが新規にトリガーされます。

GATE (ゲート) – 新規にノートを押すと、現在のエンベロープが完了した後、新規エンベロープがトリガーされます。

LFO – LFO によってエンベロープがトリガーされます。

- ㉗ **A-アタック** – キーを押してから、レベルが最大に達するまでの時間を調節します。
- ㉘ **D-ディケイ** – アタックタイムが終わった後、サステインレベルに減衰するまでの時間を調節します。
- ㉙ **S-サステイン** – アタックタイムおよびディケイタイムが終わった後の、サステインレベルを設定します。
- ㉚ **R-リリース** – キーをリリース後、信号が減衰し切るまでの時間を調節します。

コントロール部

- ㉛ **VOLUME (音量)** – メイン出力およびヘッドフォン出力の音量を調節します。電源を入れる前およびヘッドフォン装着前にはこのつまみを下げてください。
- ㉜ **GLIDE (グライド)** – キーボードのノート間のグライドタイム (ポルタメント) の長さを調節します。
- ㉝ **GLIDE ON/OFF (グライドオン / オフ)** – グライドをオン / オフします。
- ㉞ **TRANSPOSE (トランスポーズ)** – キーボードレンジを L (低域)、M (中域) および H (高域) に 1 オクターブずつ動かすことができるスイッチです。
- ㉟ **VCO フェーダー** – VCO に対するベンダーコントロールの効果を調節します。
- ㊱ **VCF フェーダー** – VCF に対するベンダーコントロールの効果を調節します。
- ㊲ **LFO MOD フェーダー** – ハンドルの MOD スイッチ押下時、またはベンダー ㉛ を上に動かした時に、付加する LFO モジュレーションの量を調節します。

- ㊳ **BENDER (ベンダー)** – 左右に動かし、VCO の周波数および / または VCF カットオフ周波数を調節します。隣接する VCO および VCF の設定により、エフェクトのレベルは変化します。ベンダーを上に動かすと、LFO モジュレーションを付加します。モジュレーションエフェクトは、LFO MOD フェーダーやほかの LFO コントロール類の設定によって変化します。

背面パネル

- ㊴ **DC IN** – (DC 入力) – 付属の DC 電源アダプターをここへ接続します。電源アダプターは、100 V~240 V、50 Hz/60 Hz の AC 電源に対応しています。必ず付属のアダプターをご使用ください。
- ㊵ **OUTPUT (メイン出力)** – この出力から、ミキサー、キーボードアンプリファァー、パワードスピーカーなどのラインレベル入力に接続します。
- ㊶ **PHONES (ヘッドフォン出力)** – この出力端子にヘッドフォンを接続します。ヘッドフォンを装着する前に、音量が下がっていることをよくご確認ください。
- ㊷ **EXT AUDIO IN (外部オーディオ入力)** – 外部オーディオ機器のラインレベル出力から、ここへ接続します。SOURCE MIXER 部の EXT AUDIO フェーダーでレベルを調節します。
- ㊸ **HOLD (ホールド)** – オプションのフットスイッチをここに接続して、シーケンサーでパターンのプレイ中、または通常のパフォーマンス中にホールド / リリースできます。
- ㊹ **VCF CV IN (VCF CV 入力)** – ここに接続した外部コントロールポルテージで VCF をコントロールできます。
- ㊺ **EXT CLK INP (外部クロック入力)** – 外部クロック信号を使用する際、ここに接続します。
- ㊻ **CV/GATE IN (CV / ゲート入力)** – モジュラーシンセサイザー機器など外部機器からのコントロールポルテージおよびゲート信号を受信する際に接続する入力端子です。
- ㊼ **CV/GATE OUTP (CV / ゲート出力)** – モジュラーシンセサイザー機器等の外部機器へコントロールポルテージおよびゲート信号を送信する際に接続する出力端子です。
- ㊽ **VELOCITY OUT (ベロシティ出力)** – キーベロシティにより、さまざまなコントロールポルテージを出力します。

- ㊾ **MIDI 接続端子** – 3 つの 5 ピン式 DIN ジャックで、お使いのシステム内のほかの MIDI 機器と接続できます。

MIDI IN (MIDI 入力) – 外部ソースから MIDI データを受信します。例えばほかの MIDI キーボード、外部ハードウェアシーケンサー、MIDI インターフェイスを装備したコンピューターなどです。

MIDI THRU – MIDI 入力を受信した MIDI データをパススルーします。

MIDI OUT (MIDI 出力) – MIDI データをアプリケーションへ送信します。

- ㊿ **USB ポート** – コンピューターと接続する時に使用する USB B タイプジャックです。MS-101 は、MIDI 入出力に対応したクラスコンプライアント USB MIDI 機器として表示されます。

USB MIDI 入力 – アプリケーションからの MIDI データを受信します。

USB MIDI 出力 – MIDI データをアプリケーションへ送信します。

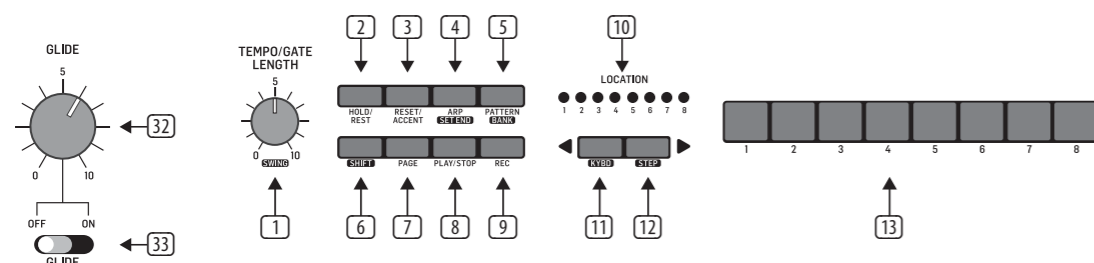
- ① **GRIP/MOD (グリップ / モジュレーション)** – ライブパフォーマンスグリップのコネクターをここに差し込みます。

ライブパフォーマンスキット

- ② **BENDER (ベンダー)** – VCO の周波数および / または VCF のカットオフ周波数を調節します。効果の強さは VCO および VCF のベンダーフェーダーの設定により変化します。このコントロールは周波数のみを増幅します。メインユニットのベンダーと同時使用できます。
- ③ **MOD (モジュレーション)** – LFO モジュレーションを付加するにはこのボタンを長押しします。効果の強さは LFO モジュレーションフェーダーおよびもう 1 つの LFO コントロールによって変化します。
- ④ **コネクター** – 本体背面パネルにある、GRIP および MOD コネクターに接続します。
- ⑤ **マウンティングホール** – 付属のネジをここに差し込み、メインユニット左サイドにハンドルを固定します。
- ⑥ **ストラップポイント 1** – 付属のストラップの一端をここへ取り付けます。
- ⑦ **ストラップポイント 2** – 付属のネジで、本体右サイドにこのパーツを固定します。
- ⑧ **ストラップ** – 付属のストラップを 2 つのストラップポイントに取り付けます。

MS-1 コントロール

JP



シーケンサーセクション

- ① **テンポ/ゲート長** – このノブは、シーケンサーとアルペジオのテンポを制御します。ステップ編集中に、GATEの長さも制御します。SHIFT を押したままにすると、ノブで SWING も調整されます。
- ② **ホールド/レスト** – パターンの再生中、これにより現在のステップを保持できます。ステップ編集中に、休符を入力することができます。
- ③ **リセット/アクセント** – 再生中に、パターンをステップ1にリセットできます。ステップ編集中に、ステップにアクセントを追加できます。
- ④ **ARP (SET END)** – ARP モードでは、キーボードで保持されているノートに基づいてアルペジオが再生されます。アルペジオを再生して保持するには、ダブルを押します。シーケンサーモードでは、SHIFT と SET END を同時に押してから、STEP スイッチを押すとそのステップが可能になります。現在のパターンの終わりになります。
- ⑤ **パターン (バンク)** – このスイッチは、次のように、現在のパターンまたはバンク番号のいずれかにアクセスするために使用されます。

パターン: PATTERN を押すと、8つの LOCATION LED の1つに現在のパターン番号 (1 から 8) が表示されます。別のパターン番号に変更するには、PATTERN スイッチを押したまま STEP スイッチ (1~8) のいずれかを押すか、<KYBD を押してパターン番号を小さくするか、STEP> を押してパターン番号を大きくします。

バンク: SHIFT と PATTERN を押すと、8つの LOCATION LED の1つに現在のバンク番号 (1 から 8) が表示さ

- ⑥ **シフト** – これは、SET END、BANK、SWING、KYDB、STEP などの他のシーケンサーコントロールの2次機能にアクセスするために使用されます。SHIFT と他のスイッチを同時に押し続けます。たとえば、SHIFT + PATTERN (BANK) は、LOCATORLED に現在の BANK 番号を表示します。
- ⑦ **ページ** – 各パターンの長さは最大 32 ステップです。このスイッチを使用すると、それぞれ 8 ステップの 4 ページのそれぞれを表示できます。LOCATION LED 1~4 は、現在どのページにいるかを示します。パターンが再生されている場合、STEPLED は現在のページで使用中のステップを示します。
- ⑧ **再生/停止** – パターンの再生を開始または停止します。SHIFT を同時に押した場合、これがパターン保存手順の開始です。これについては以下で説明します。
- ⑨ **REC** – これを押すと、新しいパターンの記録が始まります。これは、パターン保存手順中にSHIFTとともに使用されます。
- ⑩ **ロケーション** – これらのマルチカラー LED は、現在のパターン番号、現在のバンク番号、現在のページ、ゲート長など、さまざまな詳細を表示します。
- ⑪ **KYBD** – SHIFT + KYBD を押して、シーケンサーをキーボードモードに変更します。

- ⑫ **ステップ** – SHIFT + STEP を押して、シーケンサーを STEP モードに変更します。
- ⑬ **ステップスイッチ** – これらの多機能スイッチを使用すると、個々のパターンステップの表示と選択、パターン番号の選択、パターンバンクの選択を行うことができます。これらは、パターンの記録中に現在のステップを示すために使用されます。アクティブなステップは赤色の LED で点灯し、現在のステップは赤色に点滅します。
- ⑬ **グライド** – ステップ編集中に、このノブを使用して、現在のステップを 1、2、3、または 4 つの部分に分割してラチェットを追加できます。SHIFT を押しながらノブを回して、現在のステップを LOCATOR LED (黄色) 1~4 で示されるパーツの数に分割します。ラチェットが機能するために GLIDE スイッチ ⑬ をオンにする必要はありません。

MS-1 はじめに

JP

ステップ 3: はじめに

概要

この「スタートアップガイド」では、MS-101 アナログシンセサイザーのセットアップ方法解説および、その機能について簡単にご紹介します。

接続

お使いのシステムへの MS-101 接続方法は、本ドキュメント冒頭の接続ガイドをご参照ください。

注意: 3.5 mm 入力端子をご使用になる場合、過入力にならないようご注意ください。必ず、仕様表に記載されている電圧に適合するようにしてください。3.5 mm 出力は、必ず出力電圧に対応できる入力端子に接続してください。以上を守らなかった場合、MS-101 もしくは外部ユニットに損傷を引き起こす恐れがあります。

ソフトウェアセットアップ

MS-101 は USB クラスコンプライアント MIDI 機器のため、ドライバーのインストールは不要です。Windows または MacOS で MS-101 を使用する場合、特別にドライバーを追加する必要はありません。

ハードウェアセットアップ

システム内の必要な接続を全て済ませます。

必ず付属の電源アダプターを使用して、MS-101 を電源に接続します。サウンドシステムの音量が下がっていることをご確認ください。MS-101 の電源スイッチを入れます。

ウォームアップタイム

MS-101 をレコーディングやライブパフォーマンスで使用開始する前に、15 分以上のウォームアップ時間をとっていただくことを推奨いたします（寒冷な場所から運び込んだ場合は、さらに長く時間をとってください）。こうしていただくことにより、精密アナログ回路が通常使用温度に達し、高精度なパフォーマンスが実現できます。

初期セットアップ

下の手順でセットアップし、MS-101 でのサウンドメイキングを始めましょう。

- 電源がオフの状態、ヘッドフォンを接続し、VOLUME ノブのレベルを下げます。
- SOURCE MIXER (ソースミキサー) 部で、ノギリ波形フェーダーを上げ、そのほかのフェーダーはすべて下げます (フェーダーをすべて下げると、聴取できるソースは無くなります)。

- VCF 部で、FREQ フェーダーを上げます (フェーダーが下がっていると、ローパスフィルターのカットオフ周波数が低すぎてしまいます)。
- VCA 部で、スイッチを「GATE」側にします。(スイッチが「ENVELOPE」にセットされている場合は、D (ディケイ) フェーダーまたは S (サステイン) フェーダーをあらかじめ上げておきます)。
- MS-101 の電源をオンにし、キーボードでノートをプレイしながら、音量を調節して快いリスニングレベルに設定してください。
- 音が聞こえない場合、SHIFT + <KYBD をホールドし、現在のモードが STEP モードではなく KYBD (キーボード) モードであることを確認します。REC スwitchの LED がオフになっていることをご確認ください。

SOURCE MIXER 部

MS-101 には 3 つの波形があります。サブオシレーター、内蔵ノイズジェネレーター、そして外部ソース入力です。各波形で、または各波形を組み合わせて、MS-101 でサウンドを生成します。

SOURCE MIXER フェーダーで各波形の音量を調節し、全体のミックスを作成できます。

VCO 部

RANGE ノブを調節すると、オクターブがさまざまに変化するサウンドが聞こえるでしょう。

MOD フェーダーにより、LFO で VCO をモジュレートできます。MOD フェーダーを上げ、それからレートフェーダーや波形セレクターといったモジュレーターコントロールを調節します。

スイッチが「MANUAL」になっている場合は、パルス幅フェーダーでパルス幅を調節します。SOURCE MIXER 部のパルス波フェーダーを上げ、オシレーターの音を聞いてみましょう。スイッチが LFO (またはエンベロープ) になっている場合、パルス幅は LFO とそのコントロール類 (またはエンベロープコントロール) でモジュレートされ、パルス幅フェーダーによってエフェクトの強弱が変化します。

VCF 部

FREQ (周波数) フェーダーと RES (レゾナンス) フェーダーを動かし、サウンドへの効果を聞いてみましょう。

ENV フェーダーは、ADSR エンベロープコントロールの VCF に対する効果の量を調節します。

MOD フェーダーは VCF のモジュレーション量を調節します。フェーダーを動かし、モジュレーター LFO レートフェーダーおよびその波形を調節します。

KYBD フェーダーは、演奏したノートのピッチ高低によって VCF が受ける影響の強さを調節します。

FM ソースを選択し、FM AMOUNT ノブを上げて合わせます。各 FM ソースを試してそれぞれの効果をお聞きください。

VCA 部

VCA スwitchでは、エンベロープコントロールとキーボードゲート信号のいずれかが VCA に作用するかを選択します。VCO 部のスイッチが「ENV」になっている場合、VCO パルス幅も、エンベロープコントロールから影響を受けます。

ENVELOPE 部

VCA スwitchが ENV 側になっている時、この場合、フェーダーで VCA を調節します。ボリュームレベルと、時間経過によるボリュームの変化を設定します。

これらのフェーダーでは、VCF の ENV フェーダーが少しでも上がっていれば、VCF も調節します。この場合、カットオフ周波数および時間経過による変化に作用します。

コントローラー部

GLIDE ノブおよびオン / オフスwithでは、異なる演奏ノート間のグライドタイムを調節できます。

本体ベンダーおよびハンドルのベンダーが機能するためには、近接する VCO および / または VCF ベンダーフェーダーが、少しでも上がっている必要があります。メインのベンダーは VCO ピッチ変化および、VCF を両方向へ変化させることができますが、ハンドルのベンダーホイールでできるのは増幅のみです。両方のベンダーは同時使用ができます。

ハンドルの端にある MOD スwitchを押すか、メインユニットのベンダーを上にかかし、LFO モジュレーションを加えます。モジュレーションエフェクトは、LFO MOD フェーダーやほかの LFO コントロール類の設定によって変化します。

ARPEGGIATOR (アルペジエーター)

アルペジエーターを使用するには、シーケンサー部の ARP スwitchを押します:

- 1 度押すとアルペジエーターをプレイします (ノートをリリースするとストップします)。
- 2 度押すとアルペジエーターをプレイおよびホールドします (ノートをリリースしてもアルペジオが持続します)。

アルペジエーターのレートは TEMPO/GATE LENGTH ノブで設定します。

アルペジエーターノートの演奏順には 8 種類あり、アルペジエーターのプレイ中により <KYBD または STEP> のいずれかを押すことで変更できます。LOCATION (ロケーション) LED には現在の演奏順、1~8 が表示されます:

- 1 アップ
- 2 ダウン
- 3 ダウンおよびアップ
- 4 ランダム
- 5 アップ
- 6 ダウン
- 7 アップ
- 8 ダウン

ACCENT (アクセント)

プレイ中にアクセントを使うには、シーケンサーの ACCENT スwitchを押します:

- 1 ノートをアクセントのついた状態でプレイするには押した状態でホールドします (スswitchをリリースすると停止します)。
- 2 アクセント状態をプレイ & ホールドするには、2 回押します (LED がゆっくりと点滅します)。

ノートの優先度

2 つ以上のノートを同時にプレイする場合、いずれのノートがプレイされるか (ノートの優先度) は、ENVELOPE 部のスライドスswitchのセッティングによって決まります:

GATE+TRIG: 最低音をプレイします

GATE または LFO: 最高音をプレイします

SEQUENCER

シーケンサーでは 32 ステップのノートと休符をプログラムでき、またパターンとして保存できます。最高 64 パターンを記録、保存可能で、それを 8 パターンで構成されるバンク 8 つに呼び出すことができます。

シーケンサーには 2 つのオペレーションモードがあります: KYBD (キーボード) モードでは、パターンの作成とストア (保管) をおこない、STEP (ステップ) モードでは、パターンを構成することでさまざまな相互作用を引き出すことができます。

シーケンサーの操作については、次のページに詳しく記載しています。

ファームウェアアップデート

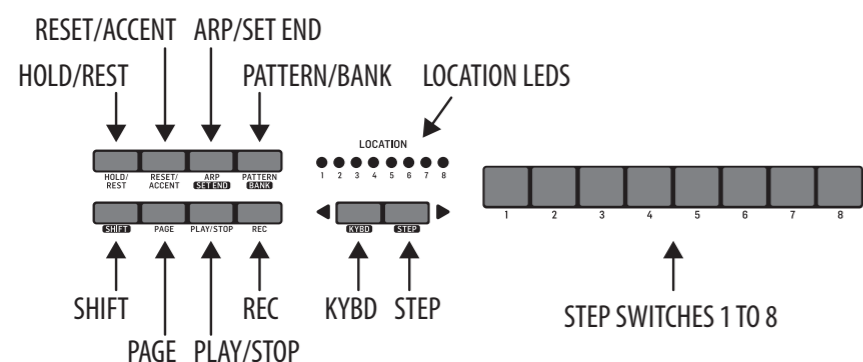
当社ウェブサイト behringer.com を定期的にご覧いただき、MS-101 シンセサイザーのアップデートの有無をご確認ください。ファームウェアファイルはお使いのコンピューターへダウンロードおよび保存し、その後 MS-101 のアップデートにご使用ください。ファイルに詳しい手順書も付属しています。

さあ楽しい時間をお過ごしください

MS-101 には Gate および CV 入出力が装備されているため、さまざまに実験を楽しんでいただくことが可能なおえ、ほかの MS-101 ユニットやモジュラーシンセサイザー機器との拡張性も備えています。

これらのコントロール端子により、音楽的創造性、可能性は限りのないものとなっています。MS-101 を楽しくお使いいただけることを、心より願っております。

MS-101 シーケンサーの操作



概要

以下の詳細は、シーケンサーの基本的な操作の一部を示しています。より複雑なパターンを試す前に、2 または 3 ステップの短いパターンを作成できます。ゲートの長さ、ラチェット、アクセント、グライド、レスト、タイ、スイングなど、一度に 1 つのパラメーターを調整し、再生中にその効果を感じます。

ソースが1つだけで、VCO やVCFのモジュレーションがないなど、シンセサイザーの簡単な設定を選択すると便利です。

ステップノートの長さは、24 ページに示されている手順を使用して調整できます。

シンプルなパターンの録音

- Shift キーと <KYBD を押して、キーボードモードを選択します。
- SHIFT、RESET、PATTERN を同時に押して、現在のパターンを初期化します。これにより、現在のパターンの前のステップがすべて削除されます。
- REC を押すと、STEP 1 スイッチの LED が点滅し始め、これが追加および編集されようとしている現在のステップであることを示します。(REC を選択できない場合は、手順 1 を繰り返します。)
- キーボードの任意の音符を押すか、以下に示すように残りを押します。
- ノートの代わりに休符を入力するには、HOLD / REST スイッチを押します。休符を追加すると、LOCATOR LED 8 が点灯します。
- さらにメモを押します。次の STEP スイッチ LED は、各音符または休符が追加された後に点滅します。
- ステップのゲート長は、TEMPO / GATE LENGTH コントロールを使用して調整できます。LOCATOR LED が赤に変わり、ゲート長が 1~8 であることを示します。8 に設定すると、次のステップとのタイが作成されます。次のステップが同じ音符である場合、2 つのステップが結び付けられているため、これにより長い音符が作成されます。

- 「ラチェット」を作成するには、SHIFT を押しながら GLIDE コントロールを回します。ロケーターLED は、1から4までのラチェットの数を黄色で表示します。たとえば、設定が 4 の場合、単一のステップは 4 つの等しい部分に分割されます。ラチェットをかけると、LOCATION LED 6 が点灯します。
- ステップで GLIDE をオンにするには、GLIDE コントロールを上げます。オフにするには、完全に下げます。ステップで GLIDE がオンになると、LOCATION LED 5 が点灯します。
- 明るさやアクセントを上げるには、RESET / ACCENT スイッチを押します。アクセントを付けると、LOCATION LED 7 が点灯します。
- パターンの作成が終了したら、REC を押します。まだ保存されていませんが、再生することができます。注意：ユニットの電源を切ったり、新しいパターンを作成したりしないでください。現在の未保存のパターンが失われます。

パターンを再生する

- PLAY / STOP を押して、現在のパターンを聴きます。
- 保存しない場合は、上記の録音手順を繰り返して、新しいパターンを録音することができます。または、PATTERN と RESET を押して、現在保存されているパターンを呼び出し、変更を破棄します。
- パターンを保存する場合は、以下の「パターンを保存する」の手順を踏む必要があります。そうしないと、新しいパターンを開始したり、電源を切ったりしても、メモリに残りません。
- このパターンの SWING を作成するには、Shift キーを押しながら TEMPO / GATELENGTH コントロールを調整します。中央の位置では、スイングは適用されません。下げるとオフビートのみが再生され、完全に上げるとオンビートのみが再生されます。以下のようにパターンを保存すると、パターンの SWING 設定が保存されます。

- パターンを演奏している間：HOLD / REST を押して、現在のステップを保持します。RESET / ACCENT を押して、手順1に戻ります。Shift キーと任意の STEP を押すと、ゲートの長さ、レスト、アクセント、ラチェット、グライドを編集できますが、メモはできません。SHIFT と同じ STEP をもう一度押して、ステップ編集を終了します。(再生を一時停止した場合、同じ操作でノートを編集することもできます。)
- PAGE を押して、1から 4 までのパターンページを表示します。Shift キーと PAGE キーを押して、自動ページめくりに戻ります。
- SHIFT と ARP / SET END と STEP を押して、シーケンスの終了ステップを変更します。再生/停止 再生を一時停止します。
- PLAY / STOP を押します。

パターンを保存する

- 現在のパターン番号の LOCATOR LED がゆっくりと緑色に点滅し始めるまで、SHIFT + PLAY / STOP を2秒間押し続けます。
- STEP スイッチ 1~8 を押して、新しい希望のパターン番号を選択します。
- PATTERN + STEP スイッチ 1~8 を押して、希望のバンク番号を選択します。
- Shift + REC を押してパターンを保存し、保存モードを終了します。

保存されたパターンのリコール

- PATTERN を長押しします。LOCATION LED は、現在のパターン番号を示します。<KYBD または STEP> スイッチを使用してパターン 1~8 を上下に移動するか、STEP スイッチ 1~8 を押します。パターンの再生中にこれを行うこともできます。
- SHIFT と PATTERN を押し続けます。LOCATION LED は、現在の銀行番号を示します。<KYBD または STEP> スイッチを使用してバンク 1~8 を上下に移動するか、STEP スイッチ 1~8 を押します。パターンの再生中にこれを行うこともできます。
- PLAY / STOP を押して、現在のパターンを再生します。
- 再生中、LOCATION LED はパターンの現在のページ (1 から 4) を示し、STEP スイッチ LED は移動するステップを示します。

ライブパフォーマンス

再生中は、次のように一時的に調整できます。(これらのどれもパターンと一緒に保存されません。)

- パターンのすべてのステップにラチェットを追加するには、pSHIFT を押して、GLIDE コントロールを調整します。
- SWING を追加するには、Shift キーを押しながら TEMPO コントロールを調整します。
- パターンをミュートするには、SHIFT + HOLD / REST を押します。
- すべてのステップにアクセントを追加するには、Shift + RESET / ACCENT を押します。
- TRANSPOSE スイッチを使用してオクターブを変更します。

パターンの編集

- キーボードモードでパターンを編集するには、REC を押します。STEP スイッチの LED が点灯します。
- PAGE を押して、編集する 1~4 のパターンページを選択します。緑の LOCATION LED 1~4 は、現在のページを示します。
- SHIFT と編集したい STEP スイッチを押します。新しい音符または休符を入力し、ラチェット、グライドのオン/オフなどの他のパラメーターを調整できます。

- SHIFT を押して、編集する次の STEP スイッチを押します。(ステップは自動的に次のステップに進むことはありません。次に編集するステップを選択できます。)
- REC を押して編集モードを終了します。
- PLAY / STOP を押して、編集したパターンを聴きます。
- 上記の「パターンの保存」手順を使用してパターンを保存することを忘れないでください。

ステップモードでパターンを作成する

- SHIFT と STEP を押して、シーケンサーの STEP モードを選択します。点滅している LOCATION LED が緑色 (キーボードモード) から黄色 (ステップモード) に変わります。
- SHIFT、RESET、PATTERN を同時に押して、現在のパターンを初期化します。これにより、現在のパターンの前のステップがすべて削除されます。(代わりに現在のパターンを使用する場合は、初期化しないでください。)
- PAGE を押して、パターンの目的のページに移動します。次に、SET END と STEP スイッチを押して、パターンの長さを選択します。たとえば、1ページにいて SET END + 8 を押すと、パターンの長さは8ステップになります。PAGE を押してページ 4 に到達し、SET END + 8 を押すと、パターンの長さは 32 ステップになります (各 8 ステップの 4 ページ)。
- 希望の SET END を選択すると、そのステップまでのすべての STEP スイッチ LED が赤く点灯します。
- SHIFT を押すと同時に STEP スイッチのいずれかを押します。点滅し始め、編集しようとしている現在のステップであることを示します。これで、ノートや休符、またはキーボードモードで上記の他の機能 (ラチェット、グライド、アクセント、ゲート長の変更など) を追加できます。
- SHIFT と現在の STEP スイッチを押して、そのステップの編集を終了します。点滅が止まります。
- 必要なすべての手順が完了するまで、上記の手順5と6を繰り返します。
- PLAY / STOP を押してパターンを再生します。
- 再生中に、上記の「ライブパフォーマンス」の手順に示すように一時的な調整を追加できます。

ステップモードでパターンを保存する

- STEP モードで作成されたパターンは、このモードでは保存されません。
- 保存したい場合は、Shift + <KYBD を押してキーボードモードに戻します。
- 注意：本機の電源を切ったり、新しいパターンを作成したりしないでください。現在保存されていないパターンが失われます。
- 上記の KEYBOARD モードの「SAVINGAPATTERN」の手順でパターンを保存します。

MS-101 チャンネルと音価

MIDI チャンネルの変更

MIDI 入力および出力チャンネルは、次の手順を使用して変更できます。

- ① SHIFT + HOLD / REST + 8 を押して、設定モードに入ります。LOCATION LED 1 が黄色に点滅します。
- ② <KYBD または STEP> を押して、ページ 1 または 2 を選択します。黄色の LOCATION LED は、現在のページを示します。
- ③ ページ 1 では、MIDI 入力チャンネル 1～16 を選択できます。
- ④ 2 ページ目では、MIDI 出力チャンネル 1～16 を選択できます。
- ⑤ STEP スイッチ 1～8 を押して、1～8 の数値を選択します。現在の値は緑色の LOCATION LED で示されます。
- ⑥ 値 9～16 にアクセスするには、SHIFT + STEP スイッチ 1～8 を押します。現在の値は赤い LOCATION LED で示されます。
注：設定が現在のページの LED と同じ LED 番号にある場合、LED は黄色のページの色と緑または赤のパラメーターの色の間で交互に点滅します。
- ⑦ SHIFT + HOLD / REST + 8 を押して設定モードを終了し、パラメーターの変更を保存します。

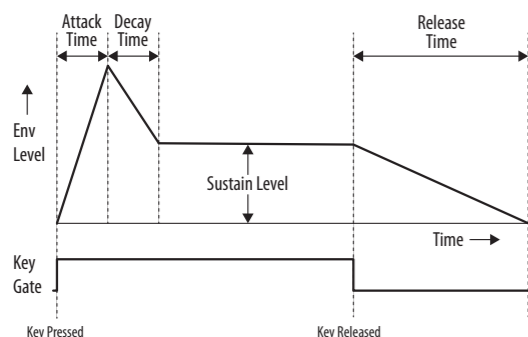
シーケンサーの音価の変更

シーケンサーで使用される音価は、次の手順を使用して変更できます。

- ⑧ PLAY / STOP を押して、現在のパターンを再生します。
- ⑨ PATTERN / BANK スイッチを長押しして、TEMPO コントロールを調整します。音価の変化を聞いてください。
- ⑩ LOCATION LED は、次のように 1 から 8 までの黄色の現在の音価を示します。
 - 1: 1/1 ノート
 - 2: 1/2 ノート
 - 3: 1/2 ノート
 - 4: 1/4 ノート
 - 5: 1/4 ノート
 - 6: 1/8 ノート
 - 7: 1/8 ノート
 - 8: 1/16 ノート
- ⑪ 音価を変更するには、いつでもこの手順を繰り返します。

ADSR エンベロープ

ADSR エンベロープのステージは、以下の簡略図に示されています。エンベロープは、VCA レベル、VCF カットオフ周波数、および VCO のパルス幅変調を制御できます。



MS-101 SysEx 情報

システム専用コマンド

一部の MS-101 パラメータは、MIDI システムエクスクルーシブ (SysEx) コマンドを使用して変更できます。MIDI OX などの MIDI ユーティリティを使用して、コンピュータと MS-101 間の USB MIDI 接続を使用して、SysEx コマンドデータ文字列を MS-101 に送信できます。

SysEx コマンドの詳細については、当社の Web サイトの MS-101 セクションを参照してください。

MS-101 MIDI

	状態	2 番目	第三	パラメータ	説明
チャンネルメッセージ	8n	kk	vv	[0,7F]	ノートオフ
	9n	kk	vv	[0,7F]	ノートオン
	Bn	5	vv	[0,7F]	グライドタイム
	Bn	7B	-		すべてメモオフ
	En	bb	bb	[0,3FFF]	ピッチベンド
SysRT	F8	-	-		タイミングクロック
	FA	-	-		開始
	FB	-	-		継続する
	FC	-	-		やめる

MIDI の例

注：(MIDI 入力チャンネル 1)

関数	コマンド
ノートオン	90 3C 64
ノートオフ	80 3C 40
グライドタイム MIN を選択	B0 05 00
グライドタイム MAX を選択	B0 05 7F
すべてメモオフ	B0 7B

JP 技術仕様

シンセサイザーアーキテクチャ	
実装	アナログ
キーボード	
キー	32 個のセミウェイトフルサイズキー
キーボードセンシング	オン/オフ、ペロシティに注意してください
VCO セクション	
ノブ	チューン (±50 セント) 範囲セレクター (16'、8'、4'、2')
フェーダー	変調度 パルス幅変調 (50% から最小)
スイッチ	PWM モード (LFO、手動、エンベロープ)
変調器セクション	
ノブ	波形セレクター (三角形、正方形、ランダム、ノイズ)
フェーダー	LFO / CLK レート
スイッチ	LFO / CLK レートセレクター: 低 (0.1 Hz~30 Hz)、中 (0.2 Hz~60 Hz)、高 (0.3 Hz~120 Hz)
LED	レートインジケータ
ソースミキサーセクション	
フェーダー	脈拍レベル
	のこぎり歯レベル
	三角レベル
	サブオシレーターレベル
スイッチ	騒音レベル
	外部オーディオレベル
スイッチ	サブオシレーター波形セレクター (1 オクターブ下、2 オクターブ下、2 オクターブ下に狭める)
VCF セクション	
フェーダー	カットオフ周波数 (10 Hz~20 kHz)
	共振 (0 から自励発振)
	封筒の深さ
	変調度
ノブ	キーボードフォロー (0~100%)
	FM ソースセレクター (パルス、ソー、サブ OSC 1オクターブダウン、2 オクターブダウン、ナロー 2 オクターブダウン、ノイズ)
	FM 深度
VCA セクション	
スイッチ	封筒、ゲートセレクター
封筒セクション	
フェーダー	攻撃時間 (2 ミリ秒から 4 秒)
	減衰時間 (2 ミリ秒から 10 秒)
	持続レベル (0~100%)
スイッチ	リリース時間 (2 ミリ秒から 10 秒)
	ゲートトリガーセレクター (ゲート+トリガー、ゲート、LFO)

コントローラーセクション	
ノブ	ボリューム グライドタイム (0~5秒)
スイッチ	グライド (オン、オフ) 転置 (低、中、高) VCO ベンダーの感度 VCF ベンダーの感度 LFO モジュレーション
フェーダー	LFO モジュレーション
ホイール/レバー	ベンダー (LFO MOD スイッチ付き) LFO オン/オフスイッチ
ハンドルコントロール	ベンダーサムホイール (ピッチを上げるのみ)
シーケンサー/アルペジエーターセクション	
ステップ	パターンごとに最大 32 ステップ
パターン数	最大 64 パターン
メモリストレージ	それぞれ 8 パターンの 8 バンク
スイッチ	ホールド/レスト、リセット/アクセント、アルプ/セットエンド、パターン/バンク、シフト、ページ、再生/停止、録音、キーボードモード、ステップモード、手順 1~8
つまみ	テンポ/ゲート長
接続性	
DC 入力ジャック	9 VDC、600 mA
MIDI イン/アウト/スルー	5 ピン DIN / 16 チャンネル
USB (MIDI)	USB 2.0、タイプ B
出力	1/4" TS、最大 +10 dBu
ヘッドホン	1/4" TRS、最大 +2 dBu @ 32 オーム
外部オーディオ入力	1/4" TS、最大 +20 dBu
フットスイッチ (オプション)	シーケンサーホールド (1/4" TS)
3.5mm TS 入力	VCF 制御電圧 (0~7V)
	外部クロック (+2.5V 以上)
	制御電圧 (1V/オクターブ、0~7V)
3.5mm TS 出力	ゲート (+2.5V 以上)
	制御電圧 (1V/オクターブ、0.417~5V)
	ゲート (オフ = 0V、オン = 10V)
3.5mm ハンドルコネクタ	速度 (0~5V)
	モッズ、グリッパ
USB	
タイプ	クラス準拠の USB 2.0、タイプ B
サポートされているオペレーティングシステム	Windows 7 以降 Mac OS X 10.6.8 以降
電力要件	
外部電源アダプター	9 VDC、1700 mA
消費電力	最大 5.4 W
環境	
動作温度範囲	5°C - 40°C (41°F - 104°F)
物理的	
寸法 (H x W x D)	85 x 569 x 267 mm (3.4 x 22.4 x 10.5")
重量	4.6 kg (10.1 ポンド)
積み込み重量	6.3 kg (13.9 ポンド)

その他の重要な情報

JP その他の重要な情報

- 1. ヒューズの格納部 / 電圧の選択:**
ユニットをパワーソケットに接続する前に、各モデルに対応した正しい主電源を使用していることを確認してください。ユニットによっては、230V と 120V の 2 つの違うポジションを切り替えて使う、ヒューズの格納部を備えているものがあります。正しくない値のヒューズは、絶対に適切な値のヒューズに交換されている必要があります。
- 2. 故障:** Music Tribe ディーラーがお客様のお近くにはないときは、musictribe.com の "Support" 内に列記されている、お客様の国の Music Tribe ディストリビューターにコンタクトすることができます。お客様の国がリストにない場合は、同じ musictribe.com の "Support" 内にある "Online Support" でお客様の問題が処理できないか、チェックしてみてください。あるいは、商品を返送する前に、musictribe.com で、オンラインの保証請求を要請してください。
- 3. 電源接続:** 電源ソケットに電源コードを接続する前に、本製品に適切な電圧を使用していることをご確認ください。不具合が発生したヒューズは必ず電圧および電流、種類が同じヒューズに交換する必要があります。

We Hear You